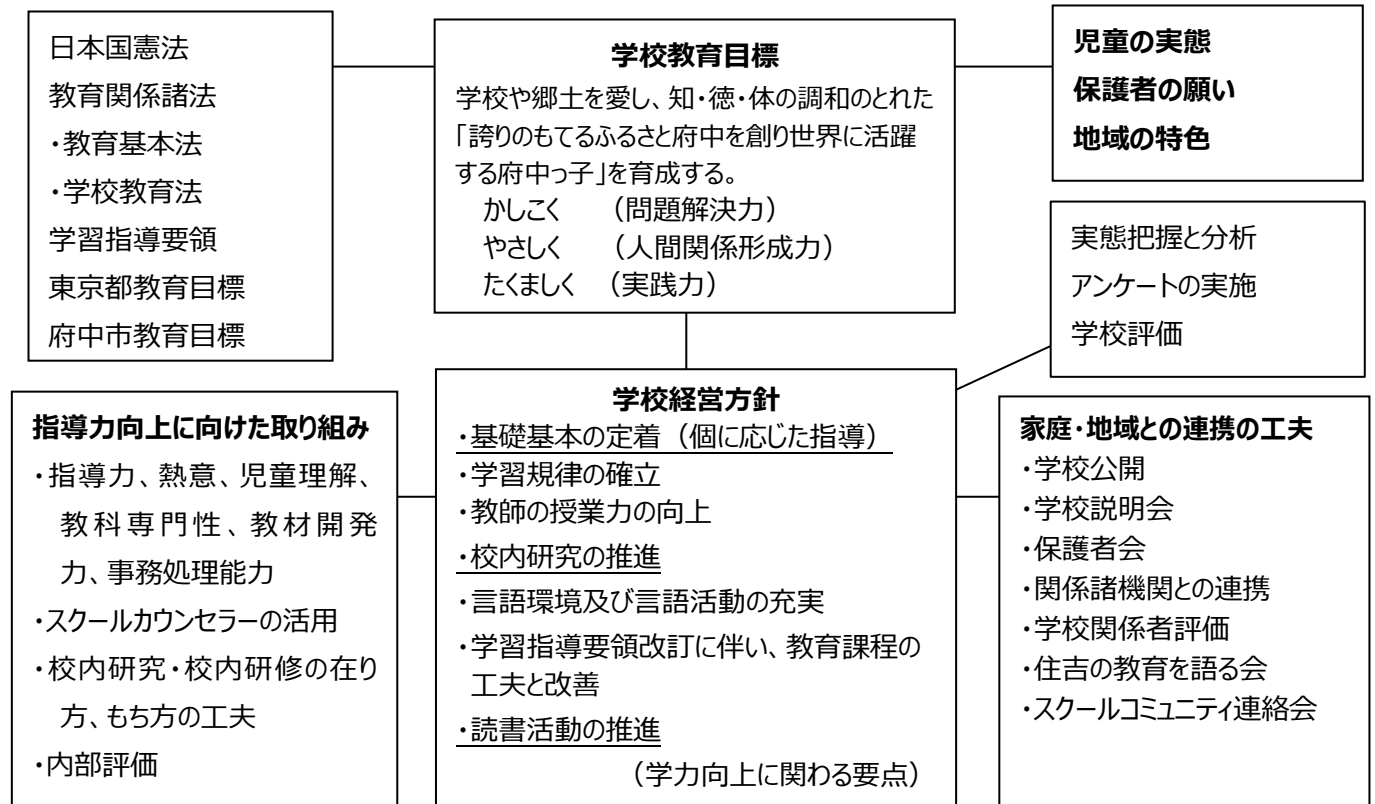


令和2年度 授業改善推進プラン 全体計画 府中市立住吉小学校



授業改善に向けた視点		
基礎・基本となる知識・技能の定着 (基)		思考力・判断力・表現力の育成 (思)
教員の指導力の向上 授業力 ・細やかな週ごとの指導計画と評価 ・教員相互の授業参観と授業改善 ・若手研 ・学年共通実践 読書 1人100冊突破 あいさつ運動など ・校内研究をはじめとする、計画的な研修・研究の推進 児童理解 ・全教職員による児童に対する共通理解 (児童理解研修、生活指導夕会、特別支援教育研修) ※管理職による授業観察と面談、指導	学力向上のための取り組み 基礎・基本となる知識・技能の定着 【分かりやすい授業づくり】 ・めあての明確化によるよく分かる授業(基) ・振り返り、繰り返しによる学力の定着(基) ・学校支援員等との連携によるよく分かる授業(基)(思) ・ユニバーサルデザインの視点にたった、誰にでも分かる授業(基)(思) ・ICTを活用した分かりやすい授業(基)(思) 【学力定着のための環境づくり】 ・読書指導・活動の充実(基) ・ベーシックドリルを活用することによる、児童一人一人の学力把握と個別指導の推進(基) ・学力テストの結果分析と改善策の検討(基)(思) ・習熟度別指導の工夫と改善と基礎的・基本的な学力の定着(基)(思) 思考力・判断力・表現力の育成 ・授業のねらいを達成するための、言語活動の充実(思) ・話し合い活動や発表する場の意図的な設定(思) ・道徳等を通して、感染症と闘う人々への感謝、命の大切さ、思いやりなどの心情を育てる。	家庭・地域との連携 家庭 ・学年に応じた家庭学習の取り組み方についての共通理解 ・望ましい学習習慣・生活習慣の基礎になる心の健康維持 ・学力調査結果を活用した保護者との学習状況や指導の方向性の共通理解 ・学校公開等でのアンケートの分析と改善策の検討・実施 地域 ・地域教材・人材の積極的な活用 ・放課後算数教室 ・地域図書館との連携や保護者ボランティアとの連携による読書活動の充実 ・学童クラブ、児童館、幼稚園、保育園、中学校との情報交換と連携 ・学校 Web サイトによる情報発信

各学年の児童の実態や課題と具体的な方策

1 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	主体的に学習に取り組む態度	・楽しんで読書をしたり、読み聞かせを聞いたりすることができる児童もいるが、関心をもてない児童もいる。	・授業内容に合わせた本を取り上げて紹介し、授業の進行に合わせて、自分で読む機会を増やす。
	思考・判断・表現	・ほとんどの児童が簡単な文章は書けるが、自分の思いを表現する技能は、個人差が大きい。	・活動や体験を振り返って ICT 機器を活用しながら友達と交流したり、言葉遊びをしたりして、書くことへの意欲をはぐくみ語彙を増やす。
	知識・技能	・話すことはできても、書くことはできないという児童が多い。	・カタカナや漢字の習得に向けた学習とともに正しい表記を復習し、書く・読む学習と合わせて繰り返し指導する。
算数	知識・技能	・数の構成が理解できていない児童がいる。 ・足し算、ひき算の正確さと速さの個人差が大きい。	・ブロックや図を（黒板掲示や ICT 機器も活用しながら）使って具体的な感覚を育てる。 ・宿題やプリント、個別指導の中で繰り返し問題を解くことを続けて力を付ける。
	思考・判断・表現	・文章の内容を理解できない児童がいる。または、理解できても自分で図や式などの数学的表現にすることができない児童もいる。	・文章題の中でキーワードを見付けさせ、具体物を使ったり、絵や図に表したりしながら理解につなげる指導を続ける。
体育	主体的に学習に取り組む態度	・体を動かすことが好きな児童が多く、楽しんで活動することができているが、個別に指導を必要とする児童もいる。	・できているところを認めたり、励ましたりしながら、意欲を維持させる。
	知識・技能	・並び方や準備運動、用具の扱いが少しずつ分かってきたが、習熟する時間が必要である。 ・走、跳のあそびを苦手な児童がいる。	・楽しく安全に運動するためのルールを（掲示物や ICT 機器を活用しながら視覚的にも）徹底し、目標をもって取り組ませる。 ・走、跳あそびなど個人や少人数の運動を行う場合は、密を避け、距離を取りながら行う。
生活	主体的に学習に取り組む態度	・生活科の授業が好きで、自主的に活動できる児童が多いが、個別対応が必要な児童もいる。	・児童の思いや願い、思考の流れに添った指導計画を立てる。
	思考・判断・表現	・学習対象との関わりが表面的であり、表現活動には自信をもつことができない児童もいる。	・見付ける、比べる、試す、工夫するなどの学習活動を充実させ、気付いたことを基に考えるようにさせる。 ・ICT 機器を使用して調べる方法も伝えていく。
音楽	思考・判断・表現	・歌が好きな児童が多く、楽しんで取り組むことができるが、個人差も生じている。	・お互いの音や声を聴き合い、音や声の強弱や美しさを感じられる環境づくり、声かけを工夫する。 ・鍵盤ハーモニカの指の動きなど、ICT 機器を活用し視覚的に確認できるようにする。
図工	思考・判断・表現	・すぐに自分のイメージが浮かび活動を進められる児童がいる一方、なかなか表現したいことが思い付かず活動が停滞したり、長続きしなかったりする児童がいる。	・児童が自分の表したいことについて、具体的にイメージできるように、普段の生活の中で夢中になっていること、驚いたこと、発見したことなどについて話す機会をつくる。 ・ICT 機器を活用しながら全体で交流する場面を設定する。

2 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 全体的に語彙力がやや弱い。そのため、文章の意味を理解できなかったり、勘違いしていたりすることが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> • キーワードや接続語、語尾など注意する部分にサイドラインを引いたり枠で囲んだりする指導を続ける。ICT を活用し、即時に交流できるようにする。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 順序立てて文を書くことが苦手である。また、書き出すまでに時間がかかる児童がいる。 • 自分の思いや考えを整理して、相手に伝わるように表現する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> • ミニカードを活用し、順序（時系列）やはじめ、中、終わりを意識できるようにする。 • 発表の仕方（ペア、全体、ICT など）を工夫することと、発表の機会を増やして、発表に対する自信をもたせる。
算数	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 量の概念が弱い児童がいる。 • 基礎的な技能の正確性や速度の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 具体的な活動を多く取り入れ、楽しく繰り返し学習ができるように工夫する。 • ICT の活用や宿題、プリントチェックや個別指導の中で、繰り返し問題を解く機会をつくる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 文章題など、問われていることに対する理解力や他への説明力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> • スモールステップで、既習の考え方を活用できるように気付かせる。 • 絵や図、式などの表現や活用の良さを繰り返し指導する。
体育	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 苦手なことにも積極的に挑戦することができる児童もいるが、苦手意識が先行してしまう児童もいる。 • 走・跳のあそびを苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 成功体験を積ませることで自分に自信をもつことができるようになる。手本となる動画（ICT 活用）を見て動きを確認。 • 走、跳あそびなど個人や少人数の運動を行う場合は、密を避け、距離を取りながら行う。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 友達の良い動きを見つけ、取り入れることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> • お互いの動きを見合う場面を取り入れることで、友達のよさに気付くことができるようにする。
生活	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 社会や自然のよさについて気付くことはできるが、それを自分の生活習慣と結びつけるところまでは届かない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業時間内に、学習の気付きを自分の生活に結びつける時間を設けるようにする。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 社会のために自分ができることをする意欲が高く、積極的に考えて試したり表したりすることができる児童もいるが、意欲をもつことが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 社会や自然を表現する際には、自分とはどんな関わりがあるかをとらえて表すことをポイントとして投げかける。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> • 生き物などへの関心や働きかけは高いが、それについて調べたり取り組んだりする力には、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 社会や自然への働きかけを認め、それについてさらに追究する意欲をかき立てる投げかけをしていく。ICT 機器を使用して調べる方法も伝えていく。
音楽	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 曲のリズムを楽しみ、鍵盤ハーモニカを一生懸命取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 旋律を階名暗唱するなど無理なく楽器の演奏の仕方を身につけさせる。書画カメラ（ICT 活用）で指使いを確認する。 • 音楽に合わせて手遊びしながら、拍のまとまりを感じ取らせるようにする。
図工	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 限られた材料や用具で繰り返しの作業はできるが、新しい表し方まで広げることができない傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な材料、用具を使った表し方を紹介し、表現の幅を広げる。インターネットを使用して参考になる作品を鑑賞する方法も紹介していく。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • アイディアに溢れ、自主的に進めることができる児童は多いが、アドバイスを求めたり、真似をしたりすることに困難を感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 活動前に児童の興味や関心を沸き立たせる工夫を行い、表現意欲を高める。
	主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> • 造形活動を好み、関心をもって取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業時間外にも様々な作品に触れる機会を設け、造形活動の楽しさを共有する。

3年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に個人差が見られ、読み書き共に苦手意識をもっている児童が数名いる。 テストでは身に付けたはずの漢字を、普段の文章の中でなかなか使えない児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 定着の低い児童については、練習の工夫を工夫できるよう助言し、定着を図るために定期的にテストを行う。 他教科の学習や日記等でも、習った漢字は使えるように、教師が意識して指導していく。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 人前で話すことに自信をもっている児童も、内容をまとめて話すことが難しい場合がある。伝えたいことを選び、自分の考えを的確に相手に伝えるように話せるよう、指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について話す活動を数多く取り入れていく。経験を多くさせるとともに、その都度ふり返りも取り入れることで、自分の話し方の課題に気付かせていく。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 説明文では、問いと答えの関係、具体例とまとめの理解が不十分で、筆者の伝えたいことをとらえきれない児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落の関係性を読み取るために、接続語に着目して読み取れることを繰り返していく。ICTを活用し、教科書を拡大して提示して、理解を深めさせる。
算数	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「合わせて」や「ちがいは」など、キーワードとなる言葉に着目させる。また、ICTを活用し、文章問題の内容を図などで確認していく。
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な四則計算の暗算ができない児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 百マス計算など、タイムを決めて取り組ませていく。タイムが上がってきているという実感をもたせていく。
社会	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 「まちたんけん」は、興味をもって取り組むことができたが、気付いたことを方位毎に比較しワークシートにまとめることができない児童もいた。 資料から読み取る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図上の方位等の基礎的知識を繰り返し指導することで、定着を図る。 ICTを活用して、資料（地図、写真等）などを提示し、気付いたことや考えたことなどを書かせる取り組みをしていく。
理科	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 生き物に興味の強い児童が多く、飼いたい、調べたいという意欲が大きい。意欲が続くように個別に指導する児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き意欲をもち続けられるよう、飼育したり、ICTを活用して色々な生き物を紹介したりしていく。
	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 調べたり観察したりしたこと、共通点や差異を見つけ出すことが難しい児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察の視点を示し、比較をしながら見つけられるようにしていく。また、全体での話し合いの時間を十分に取るようにしていく。
体育	関心・意欲 ・態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめるように、規則を工夫したり、簡単なゲームをしたりして興味をもてるようにする。
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 「マット」では、ポイントを押さえ活動することができたが、回り方の勢いや自分の体を支えられず、前転や後転がうまくできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を通して、自分の体の使い方を知る活動を取り入れる。ICTを活用して映像を紹介し、自分の体を支えたり、柔軟をしたりしながら、様々な動きを習得させる。
図工	創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> 手先の発達に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の用具・材料を使用する際にも、密集することを避けるため、ICTを活用し動画や写真を掲示することによって、使い方や手順を再度確認させる。
音楽	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 初めてのレコーダー学習を楽しみにしている。基礎的な技能（タンギングや構え方）を確実に身に付けることが課題である。 地声でなく、自然なよい発声を身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策を踏まえながら（音なし練習含む）、平易な曲で毎回5分程度、タンギング・連指練習を行う。 リレー奏など、短いフレーズでも一人一人を見取り、個に応じた指導をする。 歌う前に発声練習を取り入れ、よい範唱にたくさん出会えるように工夫する。

4年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを話すことはできるが、相手の話の要点をおさえて聞く力が弱い。 構成を工夫し、読み手に伝わるように整理して書くことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見の要点をメモしながら聞く。 大型ディスプレイで要点のおさえ方やメモの取り方を視覚で分かるようにし、話の要点をとらえられるようにする。 関心の高いこと（日記やおすすめの本など）について書く機会を作り、相手に伝えたいという意欲をもたせる。友達のよい文章を読み合い、伝わりやすい書き方のポイントを確認する。
算数	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 三角定規や分度器を使い、正しく作図することが苦手な児童が多い。 位が大きくなると正しく読めない児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し学習の機会をつくる。投影機やディスプレイを活用し、視覚的に分かるようにする。 位取り表を用いて4桁のまとまりを意識させる。
	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 文章題から場面を想像して立式することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図やイラストを活用して、場面の様子がイメージできるようにしていく。
社会	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験から興味関心をもって学習しているが、社会的事象を調査し、資料を正しく読み取ったり、自分の考えを表現したりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「問題をつかむ」「予想する」「調べる」「まとめる」のプロセスを大切にする。 資料活用の際、パンフレットや動画を活用し、イメージをもてるようにする。
理科	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 既習したことを基に実験してみようとする児童が多い。どうして、そうなるのか理由をつけて説明する児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項との関連性を明確にし、今までやってきたことからの変化に着目させる。（学習してきたことを映像で見せたり、写真で見せたりする。）
	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 実験から比較対象を決めて学習することがまだ難しい。条件をそろえて実験を行うことについてはよく理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験したことをもとに、事象を比較できるような発問をする。 自分たちで問題を解決することができるように学習問題を立てさせる。
体育	思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで規則を選択したり、工夫してゲームを行ったりすることが難しい。 自己の課題について自分なりに考えて取り組もうとする児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の規則を提示して、どの方法で行えば運動を楽しむことができるのか、選択できる幅を増やす。また、決められた規則について、変更できるところを明確にする。 自己の課題については、ICT 機器を使用して、振り返りを行う。
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 体づくりの運動で、多くの体を動かすことで自分の体の使い方を知った児童が多いが、個別に指導が必要な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の特性に合わせた活動が行えるように、動きのつながりを考えさせるようにする。実感を伴った運動を行えるように場の設定を工夫する。
図工	創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> 手先の発達に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の用具・材料を使用する際にも、密集することを避けるため、ICT を活用し動画や写真を掲示することによって、使い方や手順を再度確認させる。
音楽	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの楽曲のイメージをつかんではいくが、音楽の要素と関連させて考えることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各楽曲の中で「反復」「呼びかけと答え」「音高」「歌詞の内容」と「強弱記号」等、音楽を特徴付ける要素について触れる。 楽曲に応じた表現の仕方を考え、実際に演奏し、体感しながら経験を増やす。

5 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	思考・判断 ・表現	・作文の書き方についての基本的な知識の定着が不十分である。	・作文の書き方についての構成の立て方や原稿用紙の使い方について知識を定着させる。ICT を活用し、例示しながら身に付けさせる。
	知識・技能	・文における主語と述語の関係について、正しく読み取ることが苦手である。	・文における主語と述語の成り立ちについて知識の定着を図り、文の成り立ちを意識して読み取る機会を増やす。
算数	知識・技能	・小数のわり算とかけ算の仕方を理解し、正しく計算することに課題がある児童がいる。	・朝の学習の時間を活用し、小数のわり算とかけ算に定期的に取り組み時間を作り、定着させる。
	思考・判断 ・表現	・問題の解決に向けて、既習事項を使って自分の考えをもつ児童がいる一方で、見通しをもてず、自分の考えをもてない児童がいる。	・ICT を活用して、児童の考えたことを電子黒板に映し共有する。データを保存しておき、考える場面で提示し、見通しをもって問題に取り組みさせるようにする。
社会	知識・技能	・都道府県の位置や用語等を、正しく理解することが不十分である。	・ICT を活用し、都道府県の地図上の位置や用語を理解する資料を示し、基礎的知識を繰り返し指導することで、定着を図る。
理科	思考・判断 ・表現	・生活経験や既習事項と結び付けて予想や考察を考えることに個人差がある。	・予想や考察を考えさせるときに、生活経験や既習事項と結び付けて考えるよう、視点を提示する。
	知識・技能	・科学的な用語や定義などを正しく理解することに、個人差がある。	・実験や観察など、具体的な体験を通して、自然の事物現象についての知識が理解できるようにする。また、関連する学習において、繰り返し活用させ、定着をはかる。
体育	思考・判断 ・表現	・自己の運動課題を見付け、その解決のための活動を工夫している児童が少ない。	・自己の運動課題を見つけられるように、ICT 機器を活用したり、友達同士で見合ったりする場面を作る。また、課題に応じて練習できるように場を工夫する。
図工	主体的に学習に取り組む態度	・表したいことを見付け、活動できる児童が多いが、題材によっては、発想が広がらない児童がいる。	・材料で試しながら表したいことを見付ける場を設定し、密集することを避けながら鑑賞の時間を設けることで、児童が発想するきっかけをつくる。
音楽	思考・判断 ・表現	・グループでの演奏活動に協力して取り組むことのできる児童が多いが、自分から意見を言える児童が限られている。	・各教材で、必ず個人で考える場をつくる。一人一人が考える(自力解決)→全体で考える、またはグループでの意見交換(試行錯誤・共有)というプロセスを通して、いろいろな感性や考えに触れ、説明するための語彙を増やす。

6 年生

教科	観点	・児童の実態や課題	・課題に対する具体的な方策
国語	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・図表やグラフを用いて目的に合わせて書く力がまだ不十分である。 ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫ができる児童が少ない。 ・話し手の意図を捉えながら目的に応じて質問をすることが苦手な児童が多い。 ・自分の考えを話すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に合わせて資料を基にして文章を書く機会を多くもたせる。文章を例示する時は、文章と資料がどのように対応しているのかをICTを活用して示す。 ・調査の内容、考察などをはっきり分けて書くように指導する。 ・自分が十分に理解するためにはさらに何を尋ねるべきかを考えて質問させていくようにする。また、話し手の意図をとらえながら聞く姿勢をもたせ、自分の考えをまとめさせていく。
算数	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文の意味を捉え、筋道を立てて考えることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項のどの内容が問題解決に生かせるかを考える時間をもち、見通しをもって取り組めるようにさせていく。 ・児童の考えを電子黒板に写すなどICTを活用して、共有できるようにする。
社会	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習に意欲をもつ児童は多い。人物を中心に資料からまとめる力は付いてきているが、記述問題では、因果関係を適切に表現する力や選択肢を正しく選ぶ力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見方・考え方」の観点を明確にし、「変化した事象」「変化した結果」「因果関係」を意図した発問を行うことを通して、社会的事象が起こった原因やその後の過程など、児童が考える場面を増やす。教科書や映像資料等を活用し、社会的事象に対してイメージをもたせ、ノートや新聞作成を通じて自分の考えをまとめる学習を増やしていく。
理科	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や植物の体のつくりとその働き、生物と環境との関わりについて、知識の整理や観察、実験結果の現象は理解できる。その一方で、それらの仕組みや働きや関わりについて文で表現する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の場面では、時間を十分に確保する。そして、なぜそうなるのかを、教科書などの資料や実験結果を参考にしながら記述したり、説明したりする活動を増やしていく。 ・新型コロナウイルスの流行により、行うことができない実験についてはICTを用い、映像資料などを使って学習を行う。
体育	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の運動課題を見付け、その解決のための活動を工夫している児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の運動課題を見いだすことができるように、デジタルカメラなどを使って、自分の動きを見ることができるようにする。また、課題解決のための場を設定する。
図工	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・伸び伸びと表現できる児童が多いが、表し方の構想を練ることが苦手である。 ・作品のよさや面白さを感じ取ることができるが、作者の意図や作品の特徴を深く探ることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することによって、タブレット端末なども利用し、多様な表し方、自分の思いに合った表現を見付けるきっかけをつくる。 ・様々な作品に触れる場を設定し、一つ一つの作品についてじっくり考える活動を取り入れる。
音楽	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下で思い切り声を出せないこと、変声期に入り始めた児童もいることから、なかなか合唱を楽しむことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしく歌いやすい選曲、歌詞の内容や楽曲の面白さを見付ける活動を通して、十分な換気の上、短時間で歌を楽しむようにする。 ・変声については全体での理解を深め、無理のない範囲で歌う等自信を無くさせないようにする。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の感じや、歌詞の様子を考えながら、自分の言葉で説明できる児童も多い。しかし、感じ取ったことを自分から表現に生かす力がもう少しほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに習った楽曲や全く違う感じの曲と対比させたり、楽譜に感じ取ったことや表現の工夫を書き込んだりすることで、歌や合奏で表現したいことを意識できるようにする。